

W-2-3

発達障害のカートグラフィー* 遠藤喜雄（神田外語大学）

1.はじめに

本発表：発達障害について、広い視点から言語学（とりわけカートグラフィーの視点）から貢献が期待できる点を探る。

カートグラフィーの特徴

1. 文の統合構造を地図(cartography)のように詳細に描く研究プロジェクト
2. 主に機能範疇の階層性に着目
3. 認知科学など他の領域との親和性が高い（発達障害にも有効）
4. バリエーションを表現するのに適している（少数派のバリエーションも表現しやすい）

2. 終助詞

健常児では通常18ヵ月から24ヵ月にかけて終助詞「ね」が発現する。

綿巻(1997):自閉症児は終助詞「ね」を、ほとんど使用しない。

綿巻の仮説：自閉症児は情報を聞き手と共有することに障害を有しているために、「ね」を使わないか、使ったとしてもまれにしか使わない。

Cf. そのため、終助詞「よ」は使用する。

佐竹・小林(1987): (i) すべての終助詞を使用しない自閉症児もいる。
(ii) 訓練で発現もする。

この種の訓練は、教育の分野で用いられている自立学習支援の手法が有望
(Kato and Mynard 2016)

*本発表は、日本学術振興会科学研究費（基盤研究(C) 16K02639（研究代表者：遠藤喜雄）および基盤研究(A) 19H00532（研究代表者：幕内充）の補助を得てなされている。

2.1. 終助詞の階層性

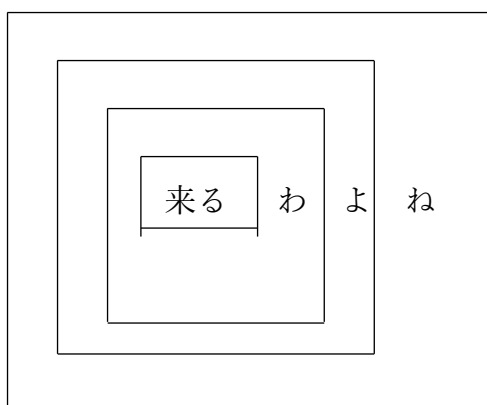
一文中に複数の終助詞が生じることが可能：入れ替えができない。

(cf. Endo 2007, 2012, 2019a, b, Endo and Haegema 2019 遠藤 2014)

(1) [[[[命題] わ・の/]よ]ね]

- a. わ/のーよーね
- b. *よーわ/のーね

(2)

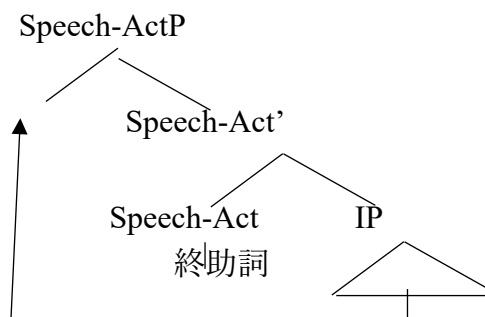


仮説：自閉症児の症状に対応して、階層のどこまでが活性化されるかが異なる

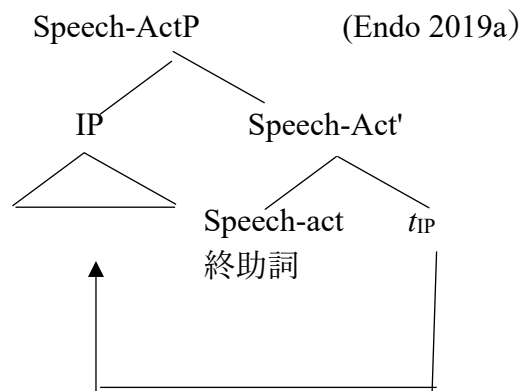
問い：終助詞は、文の演算に深く関わるのか？

- (i) 名詞的な終助詞は EPP（主語要件）を満たす(Endo 2007, 2012)
- (ii) 終助詞は格助詞の脱落を認可する(Endo 2018, 2019a)
- (iii) 終助詞は局所性の原理に従いながら非標準的な疑問文を形成する(Endo 2018, 2019b)

(3)



(4)



一番外側の終助詞「ね」は進化の過程で比較的最近出現した？（幕内充（個人談話））

呼びかけの「ね」などは、進化の早い段階からあったのでは？（宮川繁（個人談話））

ポイント：文末とそれ以外の助詞は性質が異なる。
例えば、ある語順で連続して生じる階層性を持つのは文末だけ。

- (5) 太郎は、よく食べるよね。
- (6) 太郎は（*よ）ね、よく食べるね。
- (7) （*よ）ね～行こうよ。

自閉症児の研究では、このような区別はされていないので、注意が必要。

3. 自閉症児は少数派という見方

少数派とは？

ポイント：それを特徴付けるメカニズムの解明が必要

少数派を生み出すメカニズムの事例

3.1. that-痕跡効果

- (8) *This is the man who I think that ___ will sell his house
- (9) This is the man who I think that, next year, ___ will sell his house. (Rizzi 2014)

付加詞が生じると出現する名詞的なFin が主語位置を認可する。(Rizzi 2014)

(10) [FINP [FIN[-N] that] [MODP [MOD next year] [FINP **[FIN[+N] φ]** [DP [D-**SUBJ** ø]...who...]]]] (名詞的なFin) (主語位置)

付加詞がなくともthat-trace効果が改善される少数派がいる。

(Radford 2018; Endo, 2018, 2019)

⇒そのような少数派の話者は、名詞的なFin が自由に出現でき、主語位置を認可する

3.2. how come that

⇒そのような少数の話者はhow come の直後に補文標識のthatが生じることも容認する

(11) How come that John went there? (Endo 2015, 2018)

名詞的なFin がthatを音声化(SPELL-OUT)できる

3.3. wanna 縮約(contraction)

⇒そのような少数派の話者はwantとtoの間にWHの痕跡があってもwannaに縮約できる

(12) Who do you wanna leave?

名詞的なFin が主語位置を認可するので、wantとtoの間の主語位置を経由せずにwh要素が文頭に動ける

(13) who do you want...[FINP [FIN[+N] φ] [DP [D-SUBJ ø] to ...who...]]]
←-----/

→そのような少数派の話者は、多数派が使わない機能範疇(=nominal Fin)を自由に活性化させて、thatを音声化したり、主語位置を認可できる。

→少数派の話者は、普遍文法の原理を回避するストラテジーを拡大した点で、より進化した言語の性質を持つ。

→発達障害の様なタイプの人々は、既存の常識を回避して様々に新たな進化を遂げた人々ではないか。

→少数派を排除する（＝日本に多い）のではなく、それを容認して伸ばしていく社会が望まれる。

4. まとめ

少数派の性質を生み出すメカニズムをカートグラフィーの点から言語について解明することで、自閉症のメカニズムの解明へ道が開けることが期待される
(cf. 遠藤 2019, 遠藤・前田 近刊)

参考文献

- Cinque, Guglielmo (1999) *Adverbs and Functional Heads: A Cross-linguistic Perspective*, Oxford University Press, Oxford/New York.
- Endo, Yoshio (2007) *Locality and Information Structure: A Cartographic Approach to Japanese*, John Benjamins, Amsterdam/Philadelphia.
- Endo, Yoshio (2012) “Illocutionary Force and Discourse Particles in the Syntax of Japanese,” *Modality and Theory of Mind Elements across Languages*, ed. by Werner Abraham and Elizabeth Leiss, 405-424. Mouton de Gruyter, Berlin.
- Endo, Yoshio (2015) “Two ReasonPs,” *Beyond Functional Sequence: The Cartography of Syntactic->syntactic Structure* Vol. 10, ed. by Ur Shlonsky, 220-231, Oxford University Press, Oxford/New York.
- 遠藤喜雄 (2014) 『日本語カートグラフィー序説』, ひつじ書房.
- Endo, Yoshio (2018) “Variation in Wh-Expressions Asking for a Reason,” *Linguistic Variation* [Special Issues on Complementizers: Lexical vs. Functional Variation] 18(2), 299-314.
- 遠藤喜雄 (2019) 「情動の心的計算：カートグラフィーの視点から」シンポジウム『発達障害者の言語：階層性と意図共有の接点』.
- 遠藤喜雄・前田雅子 (近刊) 『カートグラフィー』 開拓社.
- Endo, Yoshio (2019a) “Information Structure, Null Case Particle and Sentence Final Discourse Particle,” to appear in *Discourse Particles and Information Structure*, ed. by Olivier Duplâtre and Pierre-Yves, John Benjamins, Amsterdam.
- Endo, Yoshio (2019b) “Exploring Right/Left Peripheries: Expressive Meanings in

- Questions,” invited talk, to appear in *Online Proceedings of Clause Typing and the Syntax-to-Discourse Relation in Head-Final Languages*.
- Endo, Yoshio and Liliane Haegeman (2019) “Adverbial Clauses and Adverbial Concord,” *Glossa* [Special Collection on the Syntax of Adverbial Clauses], 4(1): 48, 1-32.
- Kato, Satoko., & Joan Mynard (2016). *Reflective dialogue: Advising in language learning*. New York, NY: Routledge.
- 松本敏治 (2017) 『自閉症者は津軽弁を話さない』 福村出版.
- 松本敏治・崎原秀樹・菊池一文・佐藤和之 (2014) 「自閉症児は方言を話さない」との印象は普遍的現象か」『特殊教育学研究』 52(4), 263-274.
- 松本卓也・高瀬堅吉・野尻栄一(2019) 『<自閉症学>のすすめ』 ミネルヴァ書房.
- 佐竹真次・小林重雄 (1987) 「自閉症児における語用論的伝達機能の研究：終助詞文表現の訓練について」『特殊教育研究』 25 卷 3 号, 19-30.
- 綿卷徹 (1997) 「自閉症児における共感表現「ね」の欠如」『発達障害研究 (日本発達障害学会)』 19 卷, 146–157.
- Radford, Andrew (2018) *Colloquial English*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Rizzi, Luigi (1997) “The Fine Structure of the Left Periphery,” *Elements of Grammar: Handbook of Generative Syntax*, ed. by Liliane Haegeman, 281-337, Kluwer, Dordrecht.
- Rizzi, Luigi (2014) “Some Consequences of Criterial Freezing,” *Functional Structure from Top to Toe: The Cartography of Syntactic Structures Vol. 9*, ed. by Peter Svenonius, 19-54, Oxford University Press, Oxford/New York.